

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 2 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3 4 7 0 5 0 1 5 7 2
法人名	社会福祉法人 本城福祉会
事業所名	グループホーム セラピス
所在地	呉市栃原町150-2 (電話) 0823-30-5150
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 10 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 26 年 1 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自然に満ち溢れた環境の中であり、四季の花々、鳥のさえずりが聞こえ季節の移り変わりが目の当たりに感じられる。併設に特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービスがある。グループホームより特養に入所された方、御家族との交流は続けている。又、同法人内に保育所・幼稚園がある。園児達の作品展を見学したり、運動会の練習を応援したり、園児達の声、太鼓が聞こえ、行事を通し四季を感じる事が出来る。又、近くの小学生のコーラス・劇の発表会の慰問もある。地域の秋祭り・ボランティアでの慰問等あり交流も行っている。音楽療法・カラオケ・オカリナ演奏・ゲーム等行い、毎日楽しんで過ごして頂ける様工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は広大な敷地内に特別養護老人ホーム・デイサービス・居宅介護事業所・幼稚園・保育園が併設され、お互いに行き来し交流を図っている。特に園児達との触れ合いは利用者にとってこの上ないものとなっている。「高齢者と幼児のふれあい」を大切にしたい、という創始者の思いを代表者が引き継いでいる。季節感を大切に、貼り絵や折り紙の季節飾りを作成したり、庭園では紅葉狩りをしながらお茶席が設けられる。誕生日には職員からの手紙と、代表者からのプレゼントの一つに今年度は白むく姿での写真撮影が行われ、利用者は大変喜んでおられた。日中は殆ど全員が居間で一緒に歌やカラオケ、レクリエーション、音楽療法、体操等をして過ごし、ゆっくり過ごす時間にも楽しそうにお喋りする利用者の姿が見られる。利用者の表情は常に穏やかで、職員が付き添って歌いながら歩行訓練をする方もある。職員は利用者と同じ高さに合わせてさげない介護と語りかけを行い、利用者が笑顔で過ごせるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「お互いが支え合いながら自由に楽しく我が家のように過ごす」この理念を念頭にその時の状況、その方に一番良いと思われる介護をその都度、管理者・職員で話し合い取り組んでいる。	開設当初からの理念「お互いが支え合いながら自由に楽しく過ごす」を数か所掲示している。朝夕の申し送りとかあればその都度行う見守りながらのミーティングは、理念が掲示されている場所で行われ、常に理念に立ち返ったケアを実践している。また、利用者にとって何が一番大切なかを常に話し合いながら職員の意識統一がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	秋祭り・敬老会には自治会・小学生・その他のボランティアなどの慰問があったり民生委員の訪問もある。散歩中、地域の人々と挨拶を交わし交流している。	併設デイサービスに様々なボランティア(フラダンス・コーラス・オカリナ等)の慰問があり交流している。また、敬老会には地域の小学生による劇とコーラス、秋祭りには地域の神輿と祭り太鼓の訪問があり、交流している。日常的に併設幼・保育園児との日常的な触れ合いも大切にしている。代表者が地域の女性会会長を務め、地域で様々なボランティア活動を行い交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員の近隣者・知人より相談を受ける事があり、入所・介助・介護の方法など助言している。対応が出来ない場合は併設の地域相談センターへ連絡し相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者の日常生活を見て頂いたり、地域の方々、自治会の方々との交流を説明する。又、地域の方とのつながりの必要性を話し合った。	今年度は2回開催している。メンバーは自治会長(2地区より2名)・民生委員(同)・地域包括支援センター職員・市福祉保健課職員・理事長・職員である。写真を提示しながら事業所の日常や行事報告を行い、出席者から様々な話題や地域とのつながりについて意見を出してもらった。	運営推進会議開催が年6回実施されることを期待したい。また、多方面からの出席を求めたり、行事や消防訓練等との抱き合わせ開催にするなど内容充実への工夫も合わせて希望したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	母体施設に呉市地域相談センター・居宅介護支援事業所があり、その職員を通じて必要な情報を得ている。	母体施設に市より居宅介護支援事業所が委託されており、その職員と連携をとって情報を得ている。市から定期的に介護相談員が派遣され、利用者・職員ともにあたたかい交流を行っている。また、グループホーム交流会に管理者が出席している。大雨の時は市から安否確認の電話をもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間は安全の為施錠している。昼間は施錠しない様取り組んでいるが、外に出たい入居者には職員と一緒に出かけるようにしている。	事業所内研修にて職員はよく理解し、身体拘束荷をしないケアを行っている。日常のケアにおいての気づきは、すぐに見守りながらのミーティングで話し合い意識統一を図っている。玄関の鍵は、日中職員の手が足りない時以外は開放している。見守り重視で付き添って出かけるケアを行っている。家族にも鍵についての理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設研修を行い、職員間で話し合いしている。見過すことのないようお互いに注意し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用された方が入所されていたので、その制度の必要性など職員で学ぶ機会があった。判らない事あれば、地域包括支援センターに相談する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約などに際して利用者、家族と話し合いを行い、理解して頂き納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族が意見、要望を述べられる様「苦情ご意見箱」「苦情受付簿」を設けている。又、アンケートを取りそれらを運営に反映させている。	遠方の家族を除き、面会は頻繁にある。面会時に家族から意見や要望を聞き、職員間で共有できる限り対応している。毎年家族アンケートをとり、結果から職員同士でケアのあり方を再認識している。2ヶ月に1回、管理者から直筆の手紙で利用者の様子を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見、提案あれば職員間で話し合い、管理者に伝え意見をまとめ代表者へ提案し、より良いケアが行える様、反映させている。	職員から意見や提案があれば話し合い、業務がスムーズに行われるよう、またよりよいケアとなるよう改善している。一日に複数回血圧測定の必要な利用者には、測定の統一基準を設けるよう話し合った。また、排便チェック表に便秘の日数を書き加えることで薬の調節が一目瞭然となるよう工夫した。職員の意見や要望は、代表者と連絡を密に取り合い業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい勤務状態を把握している。各自が向上心を持って働き、資格取得を目指している職員が増えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	業務を行いながらの外部への研修は難しいが、法人内職員にて相談、研修を行い、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修に参加することで同業者との交流、意見交換など行う事ができ、他の事業者の取組など学ぶ機会があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が困っている事、不安な事、要望など、サービス利用前に聞く機会を持っている。色々な情報を得て本人が安心して利用できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前に家族と話し合いの時間をもち、家族の状況を理解した上でサービス開始となる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族にとってその時に一番良い方法を本人、家族、管理者と話し合っ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	喜怒哀楽を共に過ごし、大家族と思い支援させて頂いている。人生の先輩の尊い言葉と知恵など教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人、家族とより良い関係が保てるよう連絡を取り合い絆を大切にパイプ役を務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、友人、知人の馴染みの方の面会がある。手紙・年賀状・電話などの連絡を支援し、本人から手紙の返事、連絡もお手伝いさせて頂き、今までの関係が途切れない様、支援に努めている。	家族をはじめ親戚・知人の面会時には、居室だけでなくリビングで利用者全員とも談笑してもらっている。また、家族や知人から年賀状や手紙が来るので、郵便局にハガキを買いに行き、返事を出す支援をしている。グループホームから併設の特養へ移った方が遊びに来られることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係は把握し、気の合う方々はテーブル・椅子を配置し楽しんで頂いている。一人で孤立しない様見守り、声掛け、輪の中に入れる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	自宅復帰の為の解約はないが、同法人特養への入所された事により解約になった事例はある。家族、知人も特養へ面会時には、グループホームへ気軽に立ち寄り頂き今までと同じ様、会話を楽しまれました。職員も特養に面会に行き、今までの関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の環境、生活歴など家族から聞いたり、本人の日常生活の中、会話の中から本人の思い、希望、意向の把握に努め本人にとって一番良いと思う方法を検討している。	利用開始前には事前調査・家族との面会・併設デイサービス利用時の記録や情報をもとに、データを集めている。入居後は日々の会話や声かけを大切に、思いや意向の把握を行っている。利用者状況一覧表や個人ファイルに記録し、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談の時点でこれまでの生活環境、生活歴、サービス利用など情報を得ている。又、日常生活の中でも把握が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとり、今までの環境、生活歴と現状の生活を合わせながら、生活、リズム、心身状態など把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の心身の状況を本人、家族、職員、医療関係者を含め話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	利用者の心身の状態を考慮し、利用者・家族・医師の意見を取り入れて介護計画を作成している。利用者状況一覧表に日常の様子を毎日記録し、3ヶ月毎にモニタリングを行っている。利用者・家族の満足度と職員の意見を取り入れて、継続か見直しかを決め、現状に即した介護計画となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録を記入し職員が情報を共有できる様にしている。毎日の記録をモニタリング、介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時の状況、要望に応じて本人、家族が一番良いと思われる対応を事業所として柔軟な支援ができる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、地域の自治会、小学生の慰問などの交流を行い、その協力のもと一人ひとりが豊かに楽しむ事ができる様、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を大切に本人にとって適切な医療が受けられる様にしている。	殆どの利用者が入居時に協力医をかかりつけ医に変更しているが、従来のかかりつけ医を希望される方には家族の協力を得ながら支援している。協力医は2週間毎の往診、夜間・緊急時の対応があり、連携が取れている。また、併設特養から看護師が毎日2回または必要な都度(24時間対応)、バイタルチェックや健康相談に訪れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体施設の看護師に、日常の健康管理、医療面の事など常に報告、相談し支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、主治医と相談している。退院時は病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院後は入院前の生活に戻れる様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	疾病が重症化する前に協力医と相談し必要に応じて入院している。終末期のあり方は本人、家族に説明させて頂き、方針を共有し支援を行える様努めている。	契約書に事業所の方針を示し、事業所でできる限りの支援を行っている。重度化・終末期にさしかかった時は併設特養に移っていただく旨を、利用者・家族に理解していただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	母体施設の看護師、職員にその都度対応方法を学び、急変や事故発生時の研修も行き、実践できる様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害などの災害を考え避難訓練を行っている。いつでも対応ができる様、時間も変え全職員が参加できる様訓練を実践している。	毎月1回自主避難訓練を行っている。災害の種類・火災なら出火場所や時間帯を変え、利用者・職員と一緒に訓練を行っている。毎回反省会と消防団員の職員にアドバイスをもらい、次回に活かしている。いざという時には併設施設から24時間職員が対応する体制ができています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いは丁寧に、穏やかに接する様心がけている。その方に合った親しみやすい言葉がけも行い対応している。	事業所内研修を行い、職員は人格の尊重やプライバシーを損ねないケアを行っている。個人ファイルは事務所内の鍵付き戸棚で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	解りやすい言葉で会話している。本人の思い、希望を本人が決める事ができるよう話しかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の暮らし方の基準は設けているが一人ひとりのペースに合わせて過ごして頂ける様にしている。本人の思いを大切に穏やかに過ごせる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自室洗面台に鏡がある。化粧品・櫛など置き身だしなみに気をつけている。又、職員と一緒に服を選んだりしている。理容院は月2回あり移動理容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者と職員と同じテーブルで会話をしながら一緒に食事をしている。様子を見ながら食事介助も行い、和やかな雰囲気の中食事をしている。出来る方は一緒に後片付けをされている。	併設施設の栄養士によるバランスの良い献立が厨房で作られ、事業所で盛り付けられている。必要な方には形態を変えて提供している。利用者と職員が同じテーブルで歓談しながらの楽しい食事時間となっている。週1回は職員による手作りメニューのパン食の日となっている。できる方は一緒に片付け・テーブル拭きを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は栄養士が作成し、持病のある方にも対応した食事や食事形態など一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。食事量・水分量は記録し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアを声掛けし必ず行っている。出来ない方は職員と一緒にしている。口腔内に異常があれば家族に連絡相談し訪問歯科受診を検討している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排尿・排便表を作り、その方の排泄のパターンをつかみ、リハビリパンツから日中だけ布パンツ変更となった方もいる。これからも自立に向けた支援を行って行きたい。	日中はほとんどの方が自立され、全員布パンツで過ごしている。排泄チェック表を用いて適切な声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。排便は職員間で記録方法の基準を決め、便秘時の投薬タイミングがひと目でわかるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	栄養士が管理した食事の提供や乳製品摂取、毎日の健康体操、水分補給など注意し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日、入浴希望の方には入浴して頂いている。又、2人、一緒に入浴されることもある。土・日は入浴していない。昼食後から16時頃までの入浴を希望されている。個々に応じたシャワー浴・足浴も支援している。	夏場は全員が毎日シャワー浴をしている。冬場は希望に沿って入浴支援を行っている。広い浴槽なので親しい方同士と一緒に入られたり、入浴剤や足浴、固形石けんを使う等、楽しい入浴時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具・ベット・マットなどその人に合った使い方をしている。布団干し、シーツ洗いはこまめに行い、気持ち良く眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方内容はいつでも確認が出来る様にしている。服薬に変化がある場合は、説明書の内容を理解し確認出来る様にしている。又、副作用の事なども併設施設看護師よりその都度、確認が得られる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を活かし家事などは手伝って頂いている。音楽療法・健康体操・ボランティアの方々の慰問、園児交流、折り紙などで季節の飾り物を作り発表の場を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の希望があれば職員と一緒に散歩したり時には買物にも出かけた。併設特養・デイサービスのボランティアの慰問は参加している。外出希望あれば家族に相談し支援を行いたい。	併設デイサービスには頻りにボランティアの慰問があり、そこへ出かけたり、敷地内幼・保育園へ出向き交流している。また、ウッドデッキで洗濯物干し、庭で花の世話、買物、敷地内の散歩等支援している。春には花見ドライブに出かけたり、家族の支援を得ながら外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小銭は所持されている方もいるが、難しい方は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	外線からの電話を取り次ぎゆっくりお話しされている。手紙も届き返事を書かれ手紙のやり取りをされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の生け花を飾りお正月、お雛様、お月見、クリスマスなど入居者が作成した物を玄関・居間に飾り、季節感、生活感を取り入れ、居心地よく過ごせる様工夫している。	ウッドデッキに面した食堂と居間はガラス貼りで明るく広く、デイサービスへ慰問する園児たちが通る度に手を振ったり涙を流して喜ばれている。季節感を大切に、季節毎の貼り絵や折り紙、壁飾りで明るい雰囲気になっている。また行事の写真や利用者の作品を飾っている。皆で集える居間にはゆったり座れるソファや一人用の椅子を配し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気のあった利用者同士でお話しが出来るようソファの配置に気配りしている。又、自由に一人になれる様、椅子を配置し居場所の工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの部屋には慣れ親しんだ家具・仏壇を持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり、本人が作った飾り物を置き、本人が居心地良く過ごせる様に工夫している。	洗面台・ベッド・クローゼット・エアコンが備えてある。家族と相談しながら馴染みの物や使い慣れた物、必要な物（布団・たんす・仏壇・家族の写真・洋服かけ・テレビ等）を自由に持ち込んでもらい、居心地よい居室となるよう支援している。清潔に過ごせるよう利用者と一緒に掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内には手摺が設置してある。残存機能を活かし見守りの中、自分で出来る事はして頂き安全に生活が送れる様工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="checkbox"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="checkbox"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="checkbox"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="checkbox"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="checkbox"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()

2 目標達成計画

事業所 グループホーム セラピス

作成日 平成 26 年 2 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進委員会の開催回数が少ない。	定期的（2ヶ月毎）な開催。	新年度より2ヶ月毎の開催日を決め、その都度案内を出し実施に努める。	平成26年4月より
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。